

九州産業大学図書館蔵「源氏物語かるた(江戸中期写)」

— 解題と翻刻 —

宮 崎 裕 子

一 解題

今回紹介するのは、九州産業大学図書館が所蔵する、『源氏物語』を題材にした三種類のカルタの内の一つで、江戸中期に成ったとされる「源氏物語かるた」(913・363/G34/4)である^①。

この九州産業大学図書館蔵「源氏物語かるた」(以下「九産大本」)の書誌を以下に記す。

【体裁】 読札・取札共各五十四枚。七・八×五・四糎。絵・紙

本銀泥彩色画、金箔散料紙。内帙。黒塗箱(一〇×

一五・六×一・三糎)入り。

【書名】 古書店の目録による。

また、『源氏物語』を題材にしたカルタの和歌本文について

は、塩出貴美子氏が以下の十一本を校合されている^②。

- ① 大牟田市三池カルタ・歴史資料館蔵「源氏物語カルタ」
 - ② 滴翠美術館蔵「貝源氏絵入歌かるた」
 - ③ 相愛大学図書館蔵「源氏物語カルタ」
 - ④ 実践女子大学文芸資料研究所蔵「源氏カルタ」
 - ⑤ 滴翠美術館蔵「源氏物語絵入り歌かるた」
 - ⑥ 奈良大学蔵「源氏物語歌留多」
 - ⑦ 大牟田市三池カルタ・歴史資料館蔵「源氏かるた」
 - ⑧ 鶴見大学図書館蔵「源氏物語歌留多」
 - ⑨ 人間文化研究機構国文学研究資料館蔵「源氏かるた」
 - ⑩ 大牟田市三池カルタ・歴史資料館蔵「風流源氏歌留多」
 - ⑪ 大牟田市三池カルタ・歴史資料館蔵「源氏かるた」
- 同氏の調査結果を参照したところ、九産大本は、④実践女子大学文芸資料研究所蔵「源氏カルタ」(以下「実践女子大本」)、⑥奈良大学蔵「源氏物語歌留多」(以下「奈良大本」)に近い本文を持つことが判明した。
- さらに、実践女子大本・奈良大本と九産大本の字母の形状等を比較した結果、九産大本の本文は、若干ではあるものの、実践女子大本により近似することが明らかになった。

二 翻刻及び異同

【凡例】

- 一、九産大本の巻名及び和歌を翻刻し、和歌本文を『新編日本古典文学全集』（以下『新全集』）の本文と校合した。
- 一、異同のある箇所には傍線を施し、本文の右に『新全集』の当該本文を示した。
- 一、漢字・平仮名の違い、濁点の有無、送り仮名の有無、反復記号の使用及び「ゝ」「く」の相違、撥音「む」「ん」の表記の違いは異同に挙げなかった。
- 一、九産大本の本文が平仮名、『新全集』の本文が「ふりがな」を施した漢字表記となっている場合、「ふりがな」は校合の対象としなかった。
- 一、33藤裏葉巻・35若菜巻の和歌は引歌で、『源氏物語』に見えるのはその一部である。したがって、和歌の末尾に「(引歌)」と記し、『新編国歌大観』に収録された該当歌と校合した結果を本文の右に示した。

10 榊	かみかきはしるしの杉もなきものをいかにまかへておれるさかきそ
9 葵	はかりなき千尋のそこのみるふさのおひゆくす糸はわれのみそ見ん
8 花宴	いつれそと露のやとりをわかむまに小さくかはらに風もこそふけ
7 紅葉賀	物思ふに立まふへくもあらぬ身の袖うちふりしころしりきや
6 末摘花	なつかしき色ともなしになにゝこの末摘はなを袖にふれけん
5 若紫	手につみていつしかもみんむらさきのねにかよひける野への若草
4 夕兒	寄てこそそれかとも見めたそかれにほのくみゆる花のゆふかほ
3 空蟬	うつせみの身をかへてける木のもとになを人からのなつかしきかな
2 箒木	数ならぬふせやにおふる名のうききに有にもあらてきゆるはゝ木
1 桐壺	いときなき初もとゆひになかきよを契るころはむすひこめつや

20 朝兒 みしおりの露忘れぬあさかほの花のさかりは過やしぬらん	19 薄雲 入日さすみねにたな引うすくもは物おもふ袖に色やまかへる	18 松風 身をかへてひとりかへれるふるさとに聞しににたるまつかせそふく 山・	17 繪合 うきめみしその折よりもけふはまた過にしかたにかへるなみたか	16 関屋 あふ坂のせきやいかなる関なればしけきなけきのなかをわくらん	15 蓬生 尋ても我こそとはめみちもなくふかきよもきのもとの心を	14 滂標 数ならて難波のこともかひなきになにみ ^ど を盡し思ひ初けん	13 明石 秋のよのつきけのこまよ我こふる雲井をかけれ時のまも見ん	12 須磨 うきめかるいせをのあまをおもひやれもしほたるてふすまのうら波 ^{にて}	11 花散里 たちはなの香をなつかしみほとゝきす花散さとに尋てそとふ ^を
-------------------------------------	--------------------------------------	---	--	--	-------------------------------------	---	--------------------------------------	---	--

30 藤袴 おなし野ゝ露にやぬるゝふちはかま哀はかけよかことはかり ^も を	29 行幸 おしほ山みゆきつもれる松はらにけふはかりなるあとやなからん ^を	28 野分 かせさはきむら雲まよふゆふへにも忘るゝまなくわすられぬきみ ^わ	27 篝火 かゝり火に立そふこひのけふりこそ世にはたえせぬほのほなりけれ	26 常夏 なてしこのとこなつかしき色を見はもとのかきねを人やたつねん	25 螢 こゑはせて身をのみこかすほたるこそいふよりまさるおもひなるらん ^め	24 胡蝶 花そのゝこてふ ^を ・さへやした草に秋まつむしはうとくみるらん	23 初音 とし月をまつにひかれてふる人にけふうくひすのはつねきかせよ	22 玉葛 恋わたる身は夫なれとたまかつらいかなるすちをたつね来ぬらん ^つ	21 乙女 をとめ子かかみさひぬらしあまつそてふるきよの友よはひ経ぬれば ^も
---	---	---	---	--	--	---	--	---	--

40 御法	たえぬへきみのりならそたのまるゝ世に ^{々に} こむすふなかのちぎり
39 夕霧	山さとの哀れをそふるゆふきりにたち出んそもなきこゝちして
38 鈴虫	心もて草のやとりをいとへともなをすゝむしのこ糸そふりせぬ ^ほ
37 横笛	よこふえのしらへはことにかはらぬをむなく成しねこそ盡せね
36 柏木	今はとてもえんけふりもむすほゝれたえぬおもひのなを ^ほ や残らん
35 若菜	ゆふや ^{され} みはみちたとくし月まちてかへれ我せこそそのまにも見ん
34 若菜	小まつ原す糸のよはひにひかれてや野邊のわかなもとしをつむへき
33 藤裏葉	はるひさすふちのうらはのうちと ^ら けてきみしおもはゝ我もたのまん
32 梅枝	花のかはちりにし枝にとまらねとうつらん袖にあさくしまめや
31 真木柱	今はとてやとかれぬともなれきつゝ ^る まきのはしらよ我をわするな ^は

50 東屋	さしとむるむくらやしけきあつまやのあまりほとふるあまそゝきかな
49 宿木	やとり木とおもひ出すはこのもとのたひねもいかにさひしからまし
48 早蕨	此はるはたれにか見せんなき人のかたみにつめるみねの早蕨
47 総角	あけまきになかきちぎりをむすひこめおなし所によりもあはなん
46 椎下	たち寄らんかけとたのみし椎かもとむなしきとこに成にけるかな
45 橋姫	はし姫の心を ^{くみ} しりてたかせさすきはの雲に袖そぬれつゝ ^{ぬる}
44 竹川	たけかわのはしうち出し一ふしにふかき心のそと ^こ はしりきや
43 紅梅	心ありてかせの匂はすその ^の むめにまつうくひすのとは ^ず にや有へき
42 匂宮	おほつかなたれにとはましいかにしてはしめもはてもしらぬ我身 ^ぞ は
41 幻	おほそらをかよふまほろし夢にたに見えこぬたまのゆくゑたつねよ

三 影印



1 桐壺

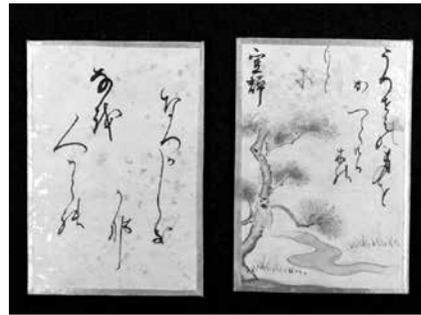


2 箒木

<p>54 夢浮橋 のりのしと尋ぬるみちをしるへにて思はぬ山にふみまとふかな</p>	<p>53 手習 身をなけしなみたの川のはやきせをしからみかけてたれかとめし</p>	<p>52 蜻蛉 有と見て手にはとられず見ればまたゆくゑもしらすきえしかけろふ</p>	<p>51 浮船 橘の小しまの色はかはらしをこのうきふねぞ行衛しられぬ</p>
--	--	---	---



5 若紫



3 空蝉



6 末摘花



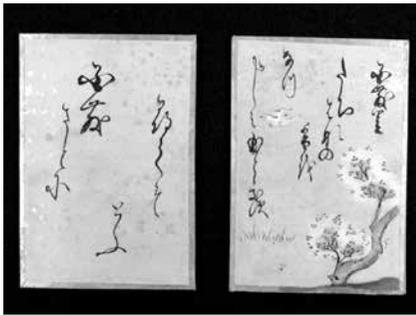
4 夕兒



10 榊



7 紅葉賀



11 花散里



8 花宴



12 須磨



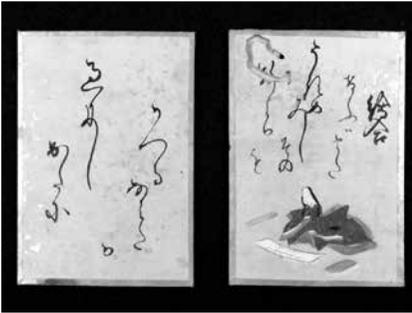
9 葵



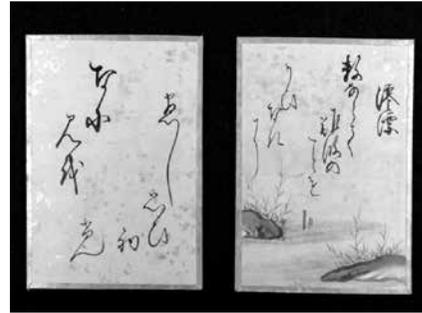
16 関屋



13 明石



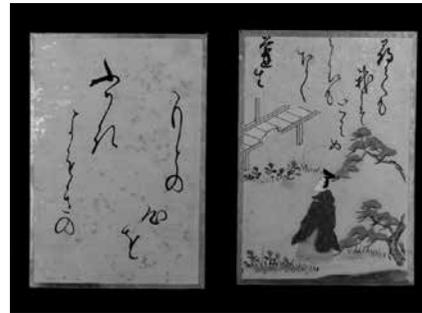
17 繪合



14 濤標



18 松風



15 蓬生



22 玉葛



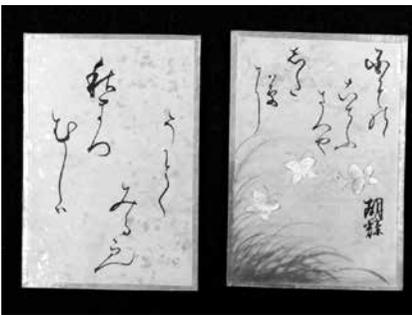
19 薄雲



23 初音



20 朝兒



24 胡蝶



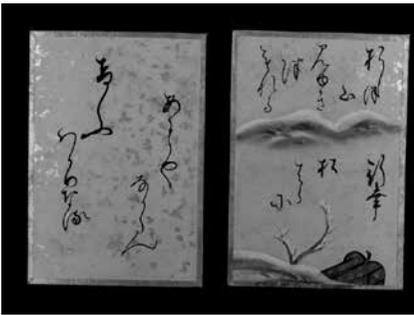
21 乙女



28 野分



25 螢



29 行幸



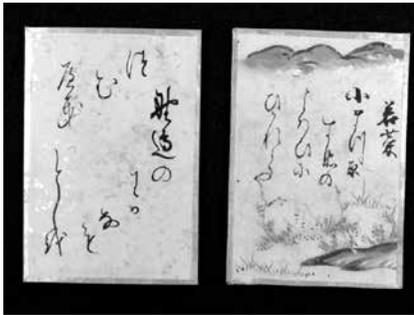
26 常夏



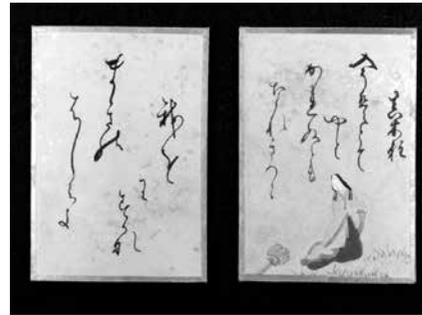
30 藤袴



27 篝火



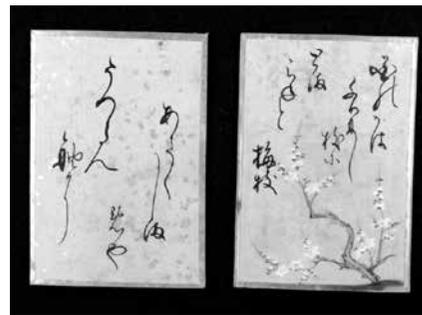
34 若菜



31 真木柱



35 若菜



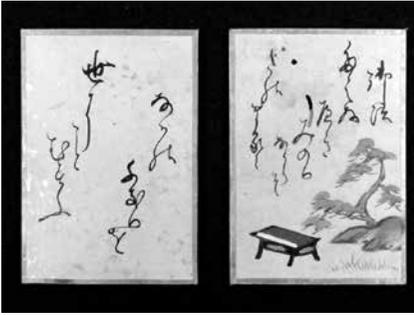
32 梅枝



36 柏木



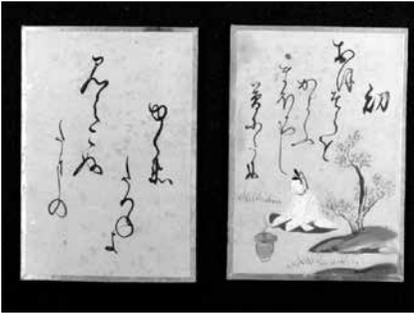
33 藤裏葉



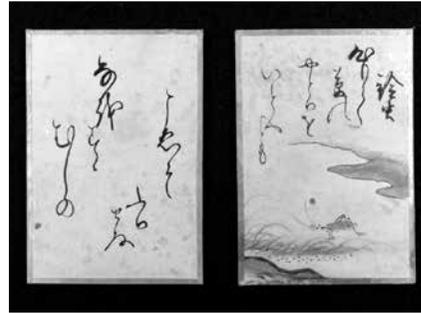
40 御法



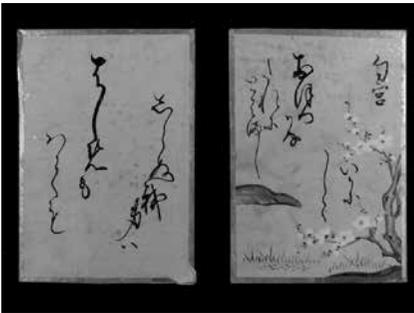
37 横笛



41 幻



38 鈴虫



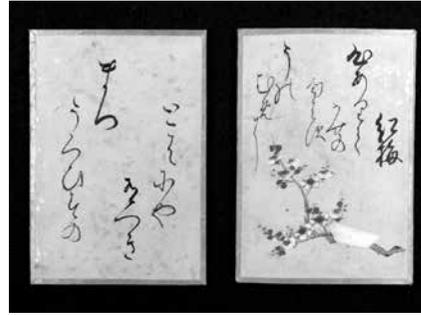
42 匂宮



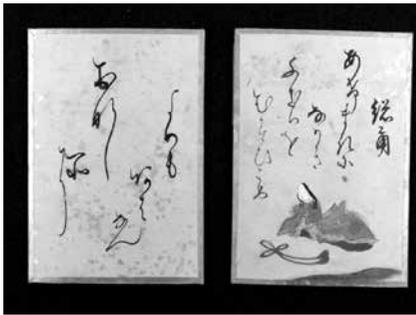
39 夕霧



46 椎下



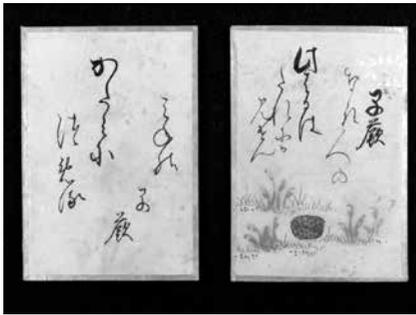
43 紅梅



47 総角



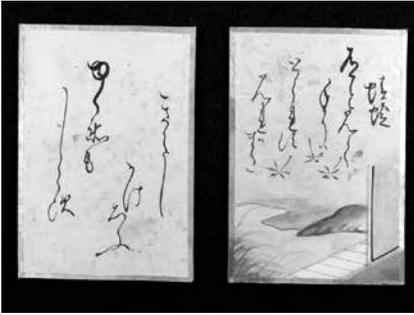
44 竹川



48 早蕨



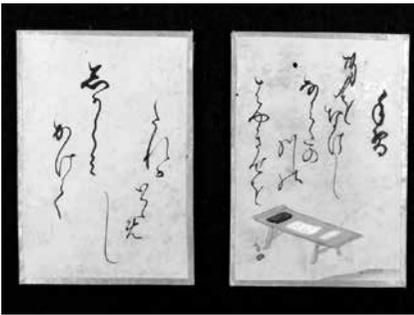
45 橋姫



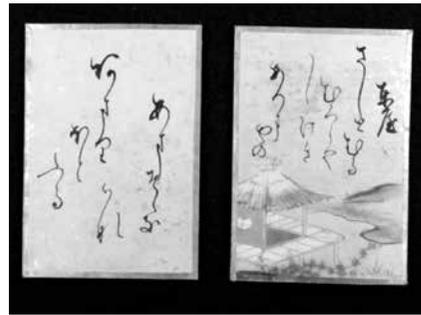
52 蜻蛉



49 宿木



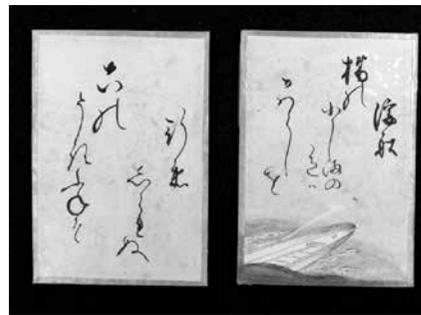
53 手習



50 東屋



54 夢浮橋



51 浮船

注

- (1) 他の二点については、『九州産業大学国際文化学部紀要』第60号（二〇一五年三月）・第66号（二〇一七年三月）に解題及び翻刻を掲載した。
- (2) 「源氏物語かるた」考―源氏絵の簡略化・抽象化・象徴化―（『奈良大学紀要』第41号、二〇一三年三月）
- (3) 上野英子「調査報告八十六―二 文芸資料研究所蔵『源氏カルタ』影印」（『実践女子大学文芸資料研究所『年報』第32号、二〇一三年三月）
- (4) 『奈良大学の『源氏物語』―屏風絵からマンガまで―』（塩出貴美子編集・執筆、奈良大学図書館発行、二〇一一年）

宮 崎 裕 子

【附記】

本稿を成すにあたり、九州産業大学図書館より、貴重な資料の閲覧・掲載許可を賜りました。ここに記して、深謝の意を表します。